

施策体系	基本目標	1. 未来を拓く人材を育成する
	施策名	1. 次代を担う子どもの育成

◆総合戦略における指標(KPI)

指標	年度		28年度	29年度	30年度	R元年度
			28年度	29年度	30年度	R元年度
ESDを通じた地域や世界への貢献の意識がある児童生徒の割合(%)	目標値		87.0	88.0	89.0	90.0
	実績値	(31年度目標値の設定の考え方) 地域や世界のために頑張りたいと答えた小学5年生と中学2年生の割合(27年度実績・86%)を、現状値から4ポイント程度(年1ポイント)向上させます。	87.4	88.3	89.7	91.7
	達成度		100.5%	100.3%	100.8%	101.9%

指標達成度に関する要因分析	施策の進捗	今後の方向性
本市の特色ある教育の主要な柱であるESDの推進において、各学校は、学校の特色や児童生徒の発達段階に応じ、自ら考え行動する児童生徒の育成を目指した教育活動を展開し、教育委員会はその支援を行うとともに、ESDに関する様々な全市的事業に取り組んだことにより、指標を達成することができました。	順調	ESDを中核として、郷土愛をはぐくむ学習や英語教育などの本市の特色ある教育の充実を一層進めるとともに、知育・徳育・体育のバランスが取れた教育を推進し、児童生徒が達成感を味わうことで、新たな目標を持ち、将来に向けた意欲を持てるようはぐくんでいきます。また、各学校が更に特色ある教育活動を展開することで、児童生徒一人ひとりが自己のよさを発揮し、目標を持って主体的に学ぶことができるよう支援していきます。

構成事業名	事業内容	指標名(単位)	目標値 実績値 達成率	R元年度取組みの実施状況	事業の 進捗	今後の方向性	
おおむた・みらいESD推進事業	持続可能な社会の担い手としての意識の醸成と実践力の育成を図るため、ESD(持続可能な開発のための教育)を推進します。	ESDを通じた地域や世界への貢献の意識(%)	90.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒によるESDの学習成果の発表と交流の場「ユネスコスクール・SDGs/ESD子どもサミット」を1月に開催し、市内小学校6校・中学校2校、市内高校1校、気仙沼市立鹿折小学校が発表しました。</li> <li>・各学校に指導主事を派遣してSDGs/ESDの教育活動を支援しました。また、児童生徒対象のESD体験講座「ネイチャースクール」を6月と10月に開催しました(合計25人参加)。</li> <li>・全国レベルで持続可能なESD推進体制の構築に向け、8月に、ESD先進市町等との協議の場「ユネスコスクール・SDGs/ESD教育委員会サミット」と全国規模の教職員研修会「ユネスコスクール・SDGs/ESD実践交流会in おおむた」を開催しました。また、全国各地でESDの中核となる指導的教員「ESDマスターティーチャー」の養成や、市内企業、団体等との協働を進めました。</li> <li>・国連大学との連携を進めるとともに、国連大学が認定するESD推進拠点「RCE」への加盟認定を受け、2月に記念式典と記念講演を開催しました。</li> <li>・市内企業、団体等へのSDGs/ESDの啓発を進めたほか、市職員対象の研修等を実施しました。</li> <li>・本市のSDGs/ESDの取組について、「広報おおむた」やHP等様々な媒体等を通して紹介・啓発を行いました。</li> </ul>	順調	継続	「ESDマスターティーチャー」の実践講座を引き続き開催するとともに、各学校の目指すSDGsを重点化して、さらなるESDの充実を図り、その取組を「SDGs/ESD全国実践交流会」や「ユネスコスクール・SDGs/ESD子どもサミット」を通して全国に発信します。
			91.7				
			101.9%				

子ども未来デッサン事業	子どもが自身の将来像を描き、その実現に向けて歩いていききっかけづくりとして、様々な職業に携わる職業人を講師に招き、その知識や体験を伝える講座を実施します。	夢や将来のことを考えたり思ったりした参加者の割合	97	児童達が、様々な仕事に携わる職業人から、職業に就いたきっかけや、夢を実現させるために努力したこと、現在の職業のやりがいや様子などの話を聞く機会をつくりました。	順調	継続	講師の生き方や体験を「聴く」ことにより、未来の自分の姿を思い描き、夢を実現するためのきっかけづくりとなる講座であるため、講師、児童ならびに保護者にも趣旨を理解してもらうよう工夫します。 ・子どもたちが夢や将来のことを考えられるよう、また、講師も子どもたちに教えることで喜びややりがいを感じ、自身の仕事に対して再確認できる機会となるよう、さらなる内容充実を図ります。 ・講師の選定にあたっては、地域の人材を活用する観点から地域で活躍している職業人などからの選定を行うこととします。
			95				
			97.9%				
子どもの居場所づくり支援事業	放課後や休日に気軽に集まり、大人の見守りの中で、自由に遊び、思い思いに過ごすことができる子どもの居場所を開設する地域の自主的な取り組みを支援します。	開設箇所数(箇所)	29	子どもの居場所に対する補助金については、定期開設17団体、長期休業期間中2団体へ交付しました。また、ボランティア養成講座を実施し、支援者育成の活動も行いました。	やや遅れ	継続	自分で歩いて行ける距離に居場所があることが理想であることから、居場所がより多く開設されるように支援します。同時に現在の居場所も継続した開設ができるための支援を検討します。
			24				
			82.8%				
子ども読書推進事業	乳児期から本に親しむ環境づくりや、子どもの読書活動の促進等に取り組みます。	児童書の貸出し冊数(冊)	165,000	・全ての子どもが絵本と出会う機会をつくるため、出生時の手続きをする窓口において、絵本と布バッグ等がセットとなったブックスタートパックを手渡しするとともに、読書ボランティアの協力のもと読み聞かせを行う「赤ちゃんとのコミュニケーション講座」を実施しました。 ・中学生期の読書活動の充実を図るため、中学生読書活動サポーター養成講座を実施しました。 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、図書館を臨時休館したことで児童書の貸出し冊数が減少しました。	順調	継続	・指定管理者と連携し、子どもと保護者が利用しやすい市立図書館の環境づくりを推進します。 ・保育所等の協力を仰ぎ、乳幼児期における読書活動の大切さを保護者に啓発する取り組みを推進します。
			149,056				
			90.3%				
通学合宿支援事業	子どもたちが親元を離れ、異年齢集団の共同生活で地域の公民館等に寝泊りしながら、学校に通うことにより、子どもたちの社会性・自主性などの「生きていく力」を育みます。	通学合宿を実施している校区数(校区)	9	・通学合宿を実施する5団体に対し、補助金の交付及び合宿当日の助言や人的支援を行いました。5団体合計で99人の子どもと実人数178人(延べ452人)のボランティアが参加しました。 ・モデル事業(新規)については、地域団体等と協議を重ね調整を行ったものの、事業を行うための体制が整っていないことから実施には至りませんでした。また、減少した2校区についても実施に向けた調整を行いましたが、昨年度よりもボランティアの確保が厳しいなどの理由により実施には至りませんでした。	遅れ	改善	・実施団体を増やすため、通学合宿を既に実施している校区の記録写真や実施後の子ども達の感想等を示す等、より分かりやすく、事業の重要性を感じてもらえるような説明を行い理解の促進に取り組みます。 ・事業のマニュアル化を図り、通学合宿実行委員会にマニュアルに沿った事業実施を案内する等、実行委員会の自立を支援します。
			5				
			55.6%				

施策体系	基本目標	1. 未来を拓く人材を育成する
	施策名	2. 知・徳・体をはぐむ学校教育の充実

◆総合戦略における指標(KPI)

指標	年度	年度			
		28年度	29年度	30年度	R元年度
将来に向けて意欲を持って取り組もうとする中学3年生の割合(%)	目標値	74.0	76.0	78.0	80.0
(31年度目標値の設定の考え方) 現状値から8ポイント程度(年2ポイント)の向上を目指します。 [現状値:72.6%(H27年度実績)]	実績値	74.3	76.2	78.6	82.8
	達成度	100.4%	100.3%	100.8%	103.5%

指標達成度に関する要因分析	施策の進捗	今後の方向性
本市の特色ある教育の主要な柱であるESDの推進ならびに、社会を生き抜く力の基礎となる「確かな学力(知育)」、「豊かな心(徳育)」、「健やかな体(体育)」のバランスが取れた児童生徒の育成を目指して、各学校と教育委員会が連携し、様々な教育活動に取り組みました。その結果、児童生徒は、目標に向けて頑張ったことによる達成感や自己のよさを様々な場面で発揮したことによる達成感を味わうことができ、指標の目標達成に寄与したと考えられます。	順調	本施策を構成する様々な事業の更なる推進と拡充を基本に取り組んでいくことが重要であると考えます。今後も、ESDを中核として、郷土愛をはぐむ学習や英語教育などの本市の特色ある教育の充実を一層進めるとともに、知育・徳育・体育のバランスが取れた教育を推進し、児童生徒が達成感を味わうことで、新たな目標を持ち、将来に向けた意欲を持てるようはぐんでいきます。

構成事業名	事業内容	指標名(単位)	目標値 実績値 達成率	R元年度取組みの実施状況	事業の 進捗	今後の方向性
少人数学級編制・少人数授業推進事業	小学校では全学年で、中学校では学校の実態に応じて弾力的に、少人数(35人以下)学級編制を行います。また、小・中学校に非常勤講師を派遣して少人数授業を推進し、習熟度別・課題別等のきめ細かな学習指導を行います。	少人数学級編制による学習意欲の向上(%)	90.0	小学校は全学年で35人以下学級編制を行っており、R元年度は県からの加配教員16人を学級担任として活用し、9校16学年で35人以下学級編制を行いました。中学校は学校の実態に応じ弾力的に35人以下学級編制を行っていますが、R元年度は対象となる中学校から要望がなかったこと等により行いませんでした。習熟度別や課題別学習などの少人数授業を実施する場合や、学校が特に学力向上が必要と判断した教科がある場合に、非常勤講師を派遣(小学校9校に13人、中学校4校に8人)し、個に応じた学習指導を充実し、学力の向上を図りました。	順調	継続
			93.0			
			103.3%			
特別支援教育支援員活用事業	通常学級に在籍する発達障害を抱える児童生徒に対し支援員を配置し、学習面や生活面での支援を行います。	特別支援教育支援員の配置効果(%)	100	障害児就学指導委員会等により要支援と判断された全ての児童生徒128人に対し、小学校18校に36人、中学校8校に16人、計52人の特別支援教育支援員を派遣しました。きめ細かな支援を受けることで、対象児童生徒本人の精神的な安定が図られ、周囲の児童生徒の理解も進み、学級全体が落ち着き、集中して学習に取り組むことができました。また、保護者の介助等の軽減も図られました。	順調	継続
			100			
			100.0%			
【再掲】おおむた・みらい・ESD推進事業	≪基本目標1「1. 次代を担う子どもの育成」参照≫					
大牟田学力ブラッシュアップ推進事業	小・中学校が実施する学力向上の取組への支援や、国語、算数(数学)の難問等に挑む「チャレンジスクール」、理科や社会科等の自由研究のコンテスト「学びのグランプリ」等を実施するほか、家庭学習習慣の定着等に取り組む、児童生徒の学力の向上を図ります。	標準学力検査結果(-)	50.0	小・中学校の夏季休業期間中の強化学習や、放課後等の補充学習に学習サポーターを派遣し、学習の充実を支援しました。8月にチャレンジスクール、10月に学びのグランプリ、12月に学習チャレンジ大会、2月に学力向上実践報告会を開催したほか、毎月11日を家庭学習の日と定め、家庭学習習慣の定着に取り組みました。また、本市の学力向上の取組について、HPやSNS等で随時紹介するなど、保護者や市民への情報発信を行いました。	順調	継続
			50.1			
			100.2%			
						「強化学習」や「補充学習」への学習サポーター派遣を継続し、個に応じたきめ細かな指導を行います。また、児童生徒の学習への興味関心を高めるとともに、学ぶ意欲を育むため、「チャレンジスクール」、「学びのグランプリ」を引き続き実施します。

大牟田英語教育ステップアップ推進事業	全小学校6年生を対象に外国語活動の充実を図る「イングリッシュ・サマースクール」、中学生を対象に実践的な英語を学ぶ「イングリッシュセミナー」や、各学校の英語教育の発表の場「オオムタ・E1グランプリ」の開催、英語検定受験の促進等により、英語教育の充実を図ります。	英語の授業の理解度(%)	85.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小学校が夏季休業中に5日間実施した「イングリッシュ・サマースクール」に、指導のサポートを行う「イングリッシュ・アドバイザー」を派遣するなどして、学習の充実を支援しました。</li> <li>・小学6年生用「イングリッシュ・ノート」を活用し各小学校が行った外国語活動の学習の充実を支援しました。</li> <li>・中学生の英語の実践力向上を図る「イングリッシュセミナー」を20回開催し、延べ80人が参加しました。</li> <li>・小中学校の英語教育の発表の場「オオムタ・E1グランプリ」を11月に開催し、16グループが参加しました。</li> <li>・新学習指導要領を踏まえた英語学習「ジョイフル・イングリッシュ・タイム」を8月に開催し、小学生54人・中学生24人が参加しました。</li> <li>・市研究指定校の明治小学校の研究発表会(11月)・人型ロボットを活用した公開学習(2月)を支援しました。</li> <li>・明治小と動物園の連携による、児童の興味関心を活かした教育(英語で動物を説明等)を支援しました(11月)。</li> <li>・小学生の英検5級受験者194人と中学2・3年生の同3級受験者114人に検定料の一部を補助しました。</li> <li>・本市の英語教育の取組について、「広報おおむた」やHP等様々な媒体等を通して紹介・啓発を行いました。</li> </ul>	順調	継続	新学習指導要領の全面实施と合わせ、小学校段階での英語を「読む」「書く」の学習が充実するよう、学習展開の充実を図ります。また、「イングリッシュセミナー」と「オオムタ・E1グランプリ」の開催(内容や方法の変更)、英検検定料の一部補助について取組を継続します。
			85.3				
			100.4%				
子ども大牟田体力検定推進事業	児童生徒に体力向上チャレンジカードと「検定カード」を配布し、日常的に運動に取り組むことを奨励するとともに、「子ども大牟田体力検定」を実施します。	児童生徒の体力向上の取組み実績(%)	90.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に「体力向上チャレンジカード」と「検定カード」を全児童生徒に配布し、各学校では、1日5分以上の運動習慣の定着や、体育の授業や昼休み等での個人や集団での縄跳びの指導を通して体力の向上を図りました。</li> <li>・全学校で年2回の子ども大牟田体力検定を実施し、到達度合いに応じた体力認定証を配布しました。</li> <li>・小・中学校体育科研究会と連携し、児童生徒の体力実態を踏まえた体力検定の行い方等について検討しました。</li> </ul>	順調	継続	小学校においては、運動の習慣化に重点化し、運動の喜びや楽しさを味わわせるため、「体力検定チャレンジカード」の活用の充実を図ります。中学校においては、各学校の体力に係る実態に応じて、学校独自の取組を重点化し、目標達成に向けた取組を継続していきます。
			92.3				
			102.6%				
「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業	いじめや不登校の問題に対し、各校の児童会・生徒会が主体となった様々な活動を進めるとともに、各校代表の児童生徒によるリーダーミーティングを開催します。	友だちを大切にする意識(%)	3.70	<ul style="list-style-type: none"> <li>各中学校区単位(1回目:7~8月)と全学校一同で(2回目:12月)の児童会・生徒会リーダーミーティングを開催し、代表児童生徒が「思いやり・親切」に係る取組の成果と課題等について交流しました。6月と10月を「思いやり・親切」の重点月間として、6月にポスターや標語を募集し、10月に優れた作品を表彰しました。また、10月に特に友だちへの関わり方の良かった児童生徒を学校代表の「友だち応援隊」として選出し、大牟田地域教育力向上推進大会で取組内容の紹介を行いました。あわせて、各学校で児童生徒が主体となって取り組んだ啓発活動を支援しました。</li> </ul>	順調	継続	中学校区ごとの取組と各学校の取組とを市全体で共有するとともに、市全体で採択した共通実践を、各学校でさらに具体化し、取組の充実を図っていきます。また、各学校が保護者や地域に向けて積極的に情報発信するよう支援を継続していきます。
			3.71				
			100.3%				

施策体系	基本目標	1. 未来を拓く人材を育成する
	施策名	3. 大牟田への愛着や誇りの醸成

◆総合戦略における指標(KPI)

指標	年度		28年度	29年度	30年度	R元年度
			本市の世界遺産、文化財等を誇りに思い、いろいろな人たちに伝えたいと思う児童生徒の割合(%)	目標値	85.0	85.0
(31年度目標値の設定の考え方) 本市の世界文化遺産、文化財等を大切にし、そのよさをいろいろな人たちに伝えたいと答えた小学5年生と中学2年生の割合(H27年度実績:83.1%)が毎年度85%以上となることを目指します。	実績値	85.7	85.9	85.9	96.1	
	達成度	100.8%	101.1%	101.1%	113.1%	

指標達成度に関する要因分析	施策の進捗	今後の方向性
世界遺産学習や子ども大牟田検定、市内全小学校の6年生が対象のバス見学会などに取り組んだ結果、成果指標に掲げる目標を達成することができました。今後も郷土に対する興味関心の喚起や近代化産業遺産への理解促進を図る必要があります。	順調	世界遺産をはじめとする近代化産業遺産や文化財の保存・活用、市史編さん事業を推進する中で、多くの市民がまちの歴史や文化に対する理解を深め、それがまちへの愛着と誇りにつながるよう、引き続き取組みを進めます。特に、次世代を担う子どもたちの郷土の歴史や近代化産業遺産への理解促進に向け、事業の充実を図ります。

構成事業名	事業内容	指標名(単位)	目標値 実績値 達成率	R元年度取組みの実施状況	事業の 進捗	今後の方向性
おおむた郷土学習推進事業	「大牟田の宝もの」である、近代化産業遺産群をはじめとした身近な「ひと・もの・こと」を題材として、郷土学習や世界遺産学習及び「子ども大牟田検定」の実施等に取り組めます。	郷土大牟田に対する興味・関心(%)	90.0	子ども大牟田検定(入門・基礎・上級)を年間2回実施しました。9月に1回目(通算17回目)を行い、5,722人の児童生徒が受検しました。1月に2回目(同18回目)を行い、7,353人の児童生徒が受検しました。年間合計の受検率は96.4%でした。また、約2,500人の市民(高校生を含む)も受検しました。	順調	継続
			90.8			
			100.9%			
【再掲】近代化産業遺産活用事業	《基本目標3「3. ひとを呼ぶ新しいにぎわいの創出」参照》					

施策体系	基本目標	1. 未来を拓く人材を育成する
	施策名	4. 高等教育機関等との連携

◆総合戦略における指標(KPI)

指標	年度		28年度	29年度	30年度	R元年度
			高等教育機関等との連携事業数(事業)	目標値	24	26
(31年度目標値の設定の考え方) 年間2事業の増加を目標とする。 [現状値:19事業(H26年度実績)]	実績値	38	32	32	31	
	達成度	158.3%	123.1%	114.3%	103.3%	

指標達成度に関する要因分析	施策の進捗	今後の方向性
本市と高等教育機関等との連携や学生等の参画については、新たに「勝立地区アンビシャス広場デイキャンプ」などの連携を実施したことに加え、継続事業とあわせ、31事業となり、目標値を上回りました。新型コロナウイルスの影響でイベントが中止となり、「大牟田市ほっとあんしんネットワーク模擬訓練」は台風により規模を縮小したため、学生の参画はありませんでした。11月には、産業振興、人材育成、保健福祉、文化・学術等の分野で、新たに久留米大学と包括連携協定を締結しました。このほか、九州大学大学院医学研究院と、レセプトデータ等を用いた本市の保健福祉事業の評価研究を実施するなど、新たな連携事業にも取り組み始めています。	順調	引き続き、今後のまちづくりを担う人材を育成するとともに、地域課題の解決を図るため、学生等のまちづくりへの参加を促進します。これまで市内の高等教育機関である医療系の帝京大学、理系の有明高専などを中心に連携を進めてきました。こうした連携は継続しながら、久留米大学をはじめとした様々な市外の高等教育機関等の持つ知見をまちづくりに活用します。

構成事業名	事業内容	指標名(単位)	目標値 実績値 達成率	R元年度取組みの実施状況	事業の 進捗	今後の方向性
学生等のまちづくり参加促進事業	市内の高等教育機関等に、市等が主催する事業やワークショップ等の情報を提供し、高等教育機関等や学生がまちづくりに参画できる関係づくりを支援します。	市主催事業等への参加者数(人)	600	各種イベントやスポーツ大会、児童・生徒への学習支援などにおいて、市内高等教育機関等との連携を行いました。高等教育機関等からは、目標を上回る、延べ694人の参加がありました。こうした連携を通じ、主体的な活動などに結びつくような人づくりを進めました。	順調	継続
			694			
			115.7%			
高等教育機関等との連携事業	高等教育機関がもつ専門的な教育資源や情報を得る機会として、公開講座等の実施を促進し、より高度な知識や情報を得る機会の確保を行います。	連携事業数(事業)	30	高等教育機関等が持つ教育資源の有効活用や人材・情報の交流を推進するとともに、市民がより高度な知識や情報を得ることができることなどを旨とし、31の連携事業に取り組みました。連携を予定していた事業においては、新型コロナウイルスの影響により、実施できなかった事業もあります。また、新たに久留米大学と包括連携協定を締結しました。	順調	継続
			31			
			103.3%			

施策体系	基本目標	1. 未来を拓く人材を育成する
	施策名	5. 生涯学習の推進

◆総合戦略における指標(KPI)

指標	年度	年度			
		28年度	29年度	30年度	R元年度
この1年間に、何らかの学習活動を行った市民の割合(%)	目標値	50.0	53.0	56.0	60.0
(31年度目標値の設定の考え方) 内閣府の調査結果(H24_57.1%)を基に目標値を設定 [現状値:43.8%(H26年度実績)]	実績値	44.4	46.2	47.9	50.7
	達成度	88.8%	87.2%	85.5%	84.5%

指標達成度に関する要因分析	施策の進捗	今後の方向性
生涯学習ボランティア登録派遣事業では、道の駅「おおむた」と連携したイベントを実施するとともに、地域の会議等やSNSへの投稿、学習情報誌「まなびのカタログ」等で事業の周知や情報発信を充実させたことで、ボランティア登録者の活動機会の創出につながり、目標達成に貢献したと考えられます。また、企業出前講座で新たな分野の学習機会を提供するとともに、メニューいろいろまちづくり出前講座で様々な媒体を活用し学習情報を提供したことで、市民の学習機会の充実に貢献し、指標の実績値向上に寄与したと考えられます。 新型コロナウイルス感染症の影響で、年度終盤の学習活動や事業の中止もあり、最終的に目標値には到達することはできませんでしたが、これらの様々な取り組みを通して市民へ幅広く学習活動の場や機会を提供することができ、学習活動を行った市民の割合は徐々に向上しており、約7割が学んだ成果を活かすことにつながっています。	順調	今後もこれらの活動を継続する一方で、いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができるよう、インターネットを活用した市役所職員出前講座の動画配信に取り組み、学習機会の提供を進めます。R元年度に取りまとめた「大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究報告書」を踏まえて策定した「大牟田市社会教育振興プラン2020～2023」に基づき、「持続可能な社会の構築」を支える人づくりに取り組むとともに、誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を個人の生活や地域での活動に活かすことができる生涯学習社会の実現を目指します。

構成事業名	事業内容	指標名(単位)	目標値 実績値 達成率	R元年度取組みの実施状況	事業の進捗	今後の方向性
多様な学習機会提供事業	市民の潜在的な学習意欲を掘り起こし、学習活動へつなげるため、メニューいろいろまちづくり出前講座や高等教育機関との連携による市民大学講座、企業出前講座等の多様な学習の機会を提供します。	「企業出前講座」に参画する民間企業の数(社)	15	<生涯学習まちづくり推進本部> ・企業出前講座【企業】33回／受講者延827人(14社・31メニュー) ・生涯学習ボランティア登録派遣事業【市民】派遣延876回／参加者延57,334人 ・市民大学講座【高等教育機関等との連携】4回(帝京大・有明高専)／受講者延80人 <生涯学習まちづくり推進会議> ・メニューいろいろまちづくり出前講座【行政】158回／受講者延5,242人	順調	継続
			14			
			93.3%			
生涯学習ボランティア登録派遣事業	自らの知識や技能(学んだ成果)を社会のために活かしたいという人を、生涯学習ボランティアとして登録し、利用したい団体等に派遣します。	生涯学習ボランティア登録者の意欲の高まり(%)	100	・R1年度生涯学習ボランティア登録者名簿「まなばんかん利用案内」(冊子):2,000部発行 ・生涯学習ボランティア延登録者数:1,569人 ・派遣回数:延876回(参加者数延57,334人) ・利用者説明会(5月)／登録者説明会・研修会(6月)／表彰式・発表会(2月) ・道の駅「おおむた」花ぷらす館と連携したステージ発表・ワークショップ等のイベントの実施(8月、11月) ・地域の会議等での事業の紹介:7回／延参加者154人 ・SNSへの投稿や学習情報誌「まなびのカタログ」等でボランティア活動の様子を紹介し、活動機会を広げるための周知・PRを実施	順調	継続
			100			
			100%			
			100			
		生涯学習ボランティア利用者の満足度(%)	100			
			100%			

施策体系	基本目標	1. 未来を拓く人材を育成する
	施策名	6. まちを元気にする人材の育成

◆総合戦略における指標(KPI)

指標	年度	年度			
		28年度	29年度	30年度	R元年度
市民活動団体の登録団体数(団体)	目標値	40	45	50	55
(31年度目標値の設定の考え方) H27年度末35団体。毎年新規登録5団体。	実績値	42	48	52	53
	達成度	105.0%	106.7%	104.0%	96.4%

指標達成度に関する要因分析	施策の進捗	今後の方向性
自主的、自発的に地域社会の課題解決に向けて取り組む市民活動の活発化に向け、人材の育成や仲間づくりをはじめ、市民活動補助事業や市民活動補償制度の実施、情報の提供や団体間のネットワーク形成のための支援等に取り組みましたが、市民活動団体の登録数は53団体にとどまり、目標値をわずかに下回りました。	順調	引き続き、市民活動に係る専門的なスキルとノウハウを持つ指定管理者と連携して、相談事業、学習機会の提供、市民活動団体間の交流、情報発信等の市民活動サポート機能の充実を図ります。

構成事業名	事業内容	指標名(単位)	目標値 実績値 達成率	R元年度取組みの実施状況	事業の 進捗	今後の方向性
つながりをはぐくむ人づくり事業	何らかの手助けや支援を必要としている人が増える一方で、人と人のつながりが希薄になり、地域で孤立している人が増えていることから、地域活動者の発掘や各種ボランティアの養成、福祉教育の推進などに取り組めます。	生活支援ボランティア等の登録者数(人)	70	社会福祉協議会との共催により「大牟田市地域福祉大会～地域支え合い“絆”セミナー」を開催し、ひきこもり支援や「8050問題」について、地域福祉活動を実践している人が集まり問題意識を共有しました。また、社会福祉協議会で行っているキャロットサービスの協力会員や生活支援員等を養成するために「市民サポーター養成講座」を行いました。また、協力会員交流会やボランティアセンターの機能充実による、市民ボランティアの支援を行いました。	順調	継続
			77			
			110.0%			
市民活動サポート事業	市民活動についての理解や関心を深めるための情報発信、活動を支える人材、資機材、活動場所の確保、活動資金の確保などを支援します。	市民活動団体補助事業への申請団体数(件)	12	市民活動補助事業は、はじめの一步事業と活動促進事業新規分の申請がなく、活動促進事業継続分2団体のみ申請、採択となりました。市民活動補償制度の請求件数は傷害4件、賠償3件で草刈時の事故が増加しています。えるの指定管理者と連携し、市民活動に関する情報発信、講座の開催及び団体間の交流促進に取り組めました。	遅れ	改善
			2			
			16.7%			
地域コミュニティ啓発・人材育成事業	地域コミュニティに関する啓発及び市職員や地域を対象とする研修等を実施します。	啓発及び人材育成に関する事業の件数	79	啓発については、広報おおむたやホームページを活用するとともに、地域自らが作成している広報誌作成のための講座を実施するなどの支援を行いました。人材育成の取組みについては、地域に対して、校区まちづくり協議会と協力して組織運営や人材育成・発掘に関する研修や視察を行いました。また、加入促進活動を通じた新たな人材発掘にも努めました。職員に対しては、協働のまちづくりに関する啓発や、校区の事業等の案内を行うとともに、入庁3～5年目の職員を対象とした地域活動を実践し、意識を高める地域活動インターンシップ研修として、10校区に23名の研修生を派遣しました。	順調	継続
			86			
			108.9%			